

2025年度 自己評価計画書

星稜高等学校

具体的取り組み	現 状	評価の観点 達成度判断基準
教務課		
1. 時間割変更をミスなく行い、生徒に確実に授業を提供する。	当日の朝の急な変更にも対応し、授業時間が確保できるように努力しているが、数件のミスが発生している。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
2. ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実にを行い仕事の無駄をなくす。	成績処理や欠席処理の方法を随時検証し、周知する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
3. 中学校の業務を把握し、事業の仕分けを行う。	中高の教務支援を円滑に行うため、事業の把握と仕分けを行う。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
総務課		
学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年・各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 *入学前オリエンテーション *入学式 *後援会総会 *保護者対象説明会 *保護者懇談会 *推薦入試・一般入試 *推薦専願合格者説明会 *卒業式 *入学説明会 *机・椅子の移動	毎年の申し送り事項の確認、スタッフアンケート結果を踏まえて、学校行事がスムーズに行なわれるように準備と設営・運営をしている。	満足度指標 A：全学年 70%以上 B：全学年 60%以上 C：全学年 50%以上 D：全学年 50%未満
進路支援課		
国公立大学への進路の実現を希望する生徒・保護者が多い現状を踏まえ、各学年と共同し、1年生には学習習慣の定着とより適正文理選択を促し、2年生にはキャリアに繋がる学部学科研究を行う中で、早い段階から受験意識の向上を図る。	前年度の学校評価アンケートの「進学指導が充実している」の項目において、1年生は72%、2年生は74%、3年生は87%が満足しているという結果を受け、各支援企画の質を更に高める余地がある。	満足度指標 A：全学年 70%以上 B：全学年 60%以上 C：全学年 50%以上 D：全学年 50%未満
3年ホーム担任の先生方が安心して進路支援業務に取り組めるよう、また3年生が一般入試・推薦入試の区別なく自らの第一志望の進路にしっかりと向き合うことができるよう、特色教育課と連携してきめ細かに環境を整備し、国公立大学130名以上の合格者数（現役120名以上）を目指す。	共通テストの自己採点に加え、その出願登録や3年進研模試までがWEB サービスへと切り替わることを受け、新システムへとスムーズに移行する準備が必要となる。また入試多様化への対応では、英検取得や小論文指導が欠かせない。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
進路支援課主導の企画や発行物、また毎週木曜発信のClassiメールを通じ、生徒の学習状況や最新の進学情報について正確に伝え、教職員は勿論のこと、保護者・生徒とも十分に情報を共有しながら、ひいては進学実績の向上に繋げる。	生徒もClassiの宛先を含め、自学自創の精神を育む機会とし、学校評価の「進学指導に必要な情報は、生徒・保護者に対し十分に提供されている」の項目では満足度が3年連続向上し87%に達した。	満足度指標 A：合計 70%以上 B：合計 60%以上 C：合計 50%以上 D：合計 50%未満
進学実績はもちろん、進路支援課の各種企画について、正確なデータに基づいたインパクトのある資料や画像を学内で共有し、本校のInstagramや新会社運営による公式ホームページに相応しい形で、入試戦略課に素材を提供していく。	広報業務が総務広報課から入試戦略課へと移行した。進路支援関係の広報活動も極めて重要であり、入試戦略課に必要なデータを提供し、インターネットにアップロードする素材もより必要となる。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
生徒支援課		
あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促す。 教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	学校生活アンケートによる自己評価では、良い評価になっているが、実情は挨拶をしてくれる生徒は少なく感じる人が多い。今年度から始まる「自学自創タイム」を有効な時間にするために遅れてくる生徒を少なくして落ちついた雰囲気を維持していきたい。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった

<p>通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。</p>	<p>自転車通学マナー向上の為に自転車安全教室の実施。 *地域・警察連携によるヤングイーグル隊の活動を実施予定。 *県ライオンズクラブとの連携によるグッドマナーキャンペーン活動を実施予定。 *意識を高める自己評価アンケートを実施。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>特活課</p>		
<p>生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。</p>	<p>生徒会活動は、役員、執行部の生徒及び各委員会委員長が自ら企画した新たな取り組みを行うことができ、活発な活動が行われつつある。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>各々がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。</p>	<p>昨年度の部活動加入率は72.8%であった。新入生に対する部活動のPRを効果的に行うと共に、各々が大会等の目標設定とプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるように支援したい。</p>	<p>満足度指標 A：合計70%以上 B：合計65%以上 C：合計60%以上 D：合計60%未満</p>
<p>自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力および歯科検診の受診率向上を目指し、保健だよりに啓発記事の掲載、未受診者に対して再通知を行い、受診意識向上に繋げていく。</p>	<p>各検診における要受診者の受診率は、視力検査が20%、歯科検査が17%、その他の項目はほぼ100%であった。視力検査および歯科検査の受診率が低い状況を改善するため、保健だよりや再通知を活用していく。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>情報システム課</p>		
<p>本校の情報システムが、安定した稼働をし、効率よく業務が行える状態を今後も維持できるよう、学園のシステム統括課とより密接に連携をしていく。</p>	<p>サーバ、iPad、教室内のプロジェクタ、ネットワークをはじめとした情報機器が円滑に使用できるよう環境の整備を行っている。あわせて適切なソフトウェアの導入も行っている。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>本校の情報資産を、機密性・完全性・可用性という情報セキュリティ3要素の確保を行い、正常に維持を行う。</p>	<p>ファイアウォール、フィルタリング、ユーザ管理やアクセス権の設定・管理を適切に行っている。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>将来的に、入試処理が複数名で共有できるように、システムの構築を進める。</p>	<p>入試が変更していくことに合わせて、新しい処理システムを構築するための必要事項の整理している段階。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>特色教育課</p>		
<p>「総合的な探究の時間」 生徒のキャリア形成につながる星稜独自の探究プログラムを作り上げる。各学年に応じた探究活動を実施し、成果物の作成や口頭発表により進路実現に必要な能力を養成する。教員間の連携を強化し、学校として一貫した方針のもとに探究活動に取り組み、生徒の活動をファシリテートする。</p>	<p>Pコースの生徒に対して一貫した指導方針がなく、年度により取り組む内容が異なっていた。ABコースの生徒は好きなもの・関心のあることからテーマの絞り込みを行ったため、探究テーマの確立に難航し、問いが立つまでに時間がかかり探究サイクルをうまく回せない生徒が存在している。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>「小論文指導」 1年生の小論文は、探究活動の成果を測る思考力テストを実施し、偏差値と関連付けた分析を行う。2年生の小論文は大学入試の出題傾向をふまえた模試を受験し、読解力や表現力の到達度を測る。3年生の小論文は希望者模試の実施に加え、国公立2次補習において添削指導を行う。</p>	<p>前年度は探究活動と小論文模試を関連付けようとしたが、目的に見合った成果を得ることができなかった。3年生に対する小論文指導は指導に当たってもらった先生のマンパワーに期待するところが大きく、効率化を図れていないという課題がある。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>「星稜の特色教育GSP」 外部との連携を通して、生徒の探究活動や進路選択に寄与する講座を企画する。自主学習・高大連携・キャリア教育・国際理解の各プログラムにおいて、土曜日の特別講座に限らず平日の探究活動や日頃の自主学習の充実につながるよう開講分野を検討してゆく。</p>	<p>土曜講座の受講率は低い(Bコース)が、参加した生徒の満足度は高い。そのため、参加する生徒と参加しない生徒の二極化がおり、意欲が高く経験豊富な受験強者とそうではない生徒との差が広がっている。この是正のため受講率向上が継続的な課題であると位置づける。</p>	<p>参加率指標(Bコース) A：各学期40%以上 B：各学期30%以上 C：各学期20%以上 D：各学期20%未満</p>

<p>「進路支援業務」 本校での特色ある教育活動が、生徒の進路実現につながるよう担任の先生方や生徒をサポートする。先生方への情報提供、生徒の個別相談への対応を行う。特色ある教育活動や生徒の進路実現に必要な書籍や資料の充実に貢献する。</p>	<p>生徒の学問志向や選抜方式が多様化してゆくことで、担任の先生でクラスの全生徒へ対応することが年々困難になっている。これにより、この困難に対応できる先生と出来ない先生が出たり、指導を受けられる生徒と受けられない生徒が出たりすることになっている。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
入試戦略課		
<p>2026年4月公開を目標に、公式Webサイトの全面リニューアルを進める。</p>	<p>昨年度より着手している準備を、今年度はより本格的かつ具体的に進める。</p>	<p>成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>
<p>各項目の目標人数 a) 夏の学校見学会：1,200名以上 b) 部活動体験：200名以上 c) 秋の学校説明会：100組以上 d) 推薦志願者：200名以上 e) 一般志願者：1,600名以上 f) 入学者：490名(内進生含む)以上 g) GROW DORM 入寮率 80%</p>	<p>過去3年間の実績数の推移を見ると、いくつかの項目において明らかな減少傾向が見られる。特に、少子化に起因する中学3年生の減少が一因と考えられるが、これまでの募集活動の在り方を見直すことが喫緊の課題である。今後は、広報戦略やターゲット層との接点強化の観点から、生徒募集活動の再検討に取り組む必要がある。</p>	<p>成果指標 A：4項目以上で達成できた B：3項目以上で達成できた C：2項目以下しか達成できなかった D：取り組めなかった</p>
<p>中学校訪問・塾訪問を積極的に行い、関係強化に努める。</p>	<p>2024年度の中学校訪問は、白山・金沢地区の35校、金沢以外の地区の40校を訪問した。2025年度5月の中学校訪問に向け、発表用資料や合格体験動画を全面リニューアル制作中である。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>